

第4学年1組 体育科学習指導案

1 単元名 プレールボール

2 運動の特性

プレールボールは、区切られたコートの中で、片手や両手でボールを打ち付けて攻防を組み立て、自陣の味方にパスをしたり、相手のコートに打ち返したりして、得点を競い合うことが楽しい運動である。

3 児童の実態

(1) 知識・技能の状況について

ワンバウンドしたボールの方向に移動し、ボールをキャッチするという技能調査（※技能調査1）では、全てのボールをキャッチした児童は10名であった。3名の児童がボールをキャッチすることが難しかった。

ネットを越えて相手コートの決められたエリアにボールをプレールするという技能調査（※技能調査2）では、一人5回ずつ調査を行った。1名が4回、7名が3回であり、半数以上は2回以下であった。さらに5名が0回という結果になった。また、相手コートに返すことが難しい児童が3名おり、その3名はボールをたたきつけることも難しかった。その他にも、相手コートに返すことができて、ボールをたたきつける力が弱い児童が5名いた。

プレールパス（※技能調査3）では、斜め横からパスされたボールをキャッチして仲間にすばやくワンバウンドパスをするという調査とキャッチせずにワンバウンドパスをするという調査の2つを行った。8名の児童は2つの調査で仲間の正面にボールをパスすることができた。キャッチありのパスでは、正面ではないが仲間がプレールできる範囲にパスをできる児童が15名いたが、7名の児童はキャッチなしのパスになると仲間にパスをするのが難しかった。3名はキャッチありのパスでも仲間の正面にパスをするのが難しかった。

本学級の児童は、3年時にゴール型のハンドパスゲームとベースボール型のキックベースを経験しているが、ネット型のゲームは、本単元が初めてであるという実態もある。

(2) 思考・判断・表現の状況について

「自分に合っためあてを立てることができますか。」という質問に対して17名の児童が「できる」と回答している。全体の7割に値するが、実際、学習カードや普段の体育学習を見ると、自分の課題を把握できず、実態に合っていないめあてを立てていたり、抽象的なめあてや振り返りを書いたりしている児童もいる。

「わからないことやうまくいかないことがあったらどうしますか。」という質問に対して、多くの児童が「友達に聞く・先生に聞く」と回答している。友達と関わって課題を解決しようとする児童が多い結果となったが、普段の体育学習を見ても、そのような児童は一部であり、多くの児童がひたすら練習に取り組むという様子が見られる上、解決するためにどうすればよいかわからない児童もいる。

「アドバイスや教え合いができますか。」という質問では、できると回答した児童は14名、「仲のよい友達ならできる」が7名、「できない」と回答した児童は4名いた。このことから、どのようにアドバイスをすればよいのかわかっておらず、何を伝えれば友達が課題を解決できるのかもわからないという児童がいることが考えられる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の状況について

体育学習は、23名の児童が「とても好き・好き」と回答し、体育が好きな児童が多い。しかしボール運動の学習では、19名の児童が「とても好き・好き」と回答し、「あまり好きではない・嫌い」と回答している児童が6名いたことから、ボール運動の学習に対して苦手意識をもっている児童がいることがわかった。好きではないと回答している児童の理由は、ボールを投げたり、捕ったりすることが難しいという内容が多かった。一方で、好きと回答している児童の理由としては、ボールを投げたり捕ったりすることが楽しいからという内容が多かった。また、「ボールを使った運動でどのようなときが楽しいですか。」という質問で、ボール操作がうまくできたときなどの回答をしている児童が多くいた。このことから、ボール操作の出来不出来が意欲面に影響してくると思われる。

「ルールを守り助け合って運動できますか。」という質問では、20名とほとんどの児童が「できる」と回答している。しかし、「わからない」と回答している児童が5名おり、その児童は、自分の感情でルールを無視してしまったり、ルールを受け入れられず、トラブルになってしまうことがある。

「勝敗を受け入れられることができますか」の質問では8名の児童が「わからない・できない」と回答している。普段の休み時間の遊びを見ていると、ルールを守れずトラブルになり、勝敗を受け入れられないという場面が多く見られることから、このような回答になっていると考えられる。

4 研究の視点と学習の手立て

(1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点と手立て

視点1 課題を見付け解決できる学習過程の工夫と指導内容の明確化

<手立て>

○課題を見付けやすくするための指導内容の明確化

本学級の児童にとってプレルボールのようなネット型の学習は初めて行う単元である。そのため、基本的な技能や動きを習得するには、ある程度時間が必要であると考えられる。実態調査よりボール運動に対して苦手意識をもつ児童が多くいることがわかっている。さらに、課題解決型の学び方も身に付いていないことから、見通しを持って学習に取り組むことができずに主体的に学ぶことができないことも予想される。このような要因が、ボール運動に対する意欲面の低下であると考えられる。

そこで、本単元では、ねらいを「かんたんなルールでプレルボールを楽しもう。」の一つとし、単元を通して身に付けさせたい力を以下の3つに絞って学習を行うこととした。

【身に付けさせたい力（指導内容）】

- ①飛んでくるボールの軌道上（落下点）に移動することができる（ようにする）。
- ②両手または片手を使って、狙った場所へボールを打つ（弾く）ことができる（ようにする）。
- ③チームや自分の課題に合っためあてを考えることができる（ようにする）。

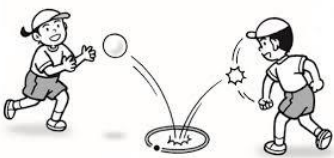
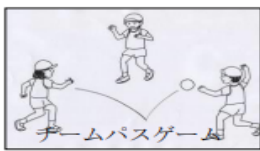
これらの力を身に付けさせることで、ボール操作の技能が向上し、友達と認め合いながら学習を進められるのではないかと考える。

(1) レベルアップタイムの設定 (身に付けさせたい力①②)

基本的な技能や動きを習得するために、「レベルアップタイム」を主運動につながる運動とし単元を通して行っていく。単元の前半では、教師が児童の技能の実態を考慮しながら活動を選択するようにし、単元の後半では、児童がチームで話し合い、チームの課題やめあてを考慮して選択できるようにする。

レベルアップタイム	
・ペアパス→チームパスゲーム ・ペア的当て→チームでの的当て ※習得状況によって発展させていく。	※実態に合わせて活動内容を決める。 チームラリー・ネットあり的当てなど
	※チームや個人の課題に合った活動を選択し、行う。

<レベルアップタイムの内容の例>

活動の名前	内容	ねらい (身に付けさせたい動き)
 ペアパス	ペアでフラフープをはさんでラリーを行う。	・ねらった場所や方向にボールを打ちつけることができるようになる。 ・ボールの方向に体を向けることができるようになる。
 2人組での的当て ペア的当て	ペア活動で、友達がパスしたボールをプレルして、的を狙う。	・ねらった場所や方向にボールを打ちつける。 ・ボールや的の方向に体を向ける。
 チームパスゲーム	チームでパスゲームを行う。	・ねらった場所や方向にボールを打ちつける。 ・ボールの方向に体を向ける。 ・打ちつける場所やボール操作しやすい位置へ移動する。
 ネットをはさんでの的当て チームでの的当て	チームでパスを行い、反対コートに設置した的をねらっての的当てを行う。	・ねらった場所や方向にボールを打ちつける。 ・ボールや的の方向に体を向ける。 ・打ちつける場所やボール操作しやすい位置へ移動する。

(2) 課題を見付けるための掲示物の工夫 (身に付けさせたい力③)

自分の課題を把握できず、実態に合っていないめあてを立てていたり、抽象的なめあてや振り返りを書いたりしている児童がいる。そこで学習の終わりに振り返りとして「得点につながるよい動き」や「チームで考えたこと」の共有する時間を設定し、掲示物にまとめていく。チームや自分の課題に合っためあてをもつ際に、その掲示物を活用することで、課題がより明確になり、自分に合っためあてを立てることができるだろう。

視点2 運動の楽しさや喜びを膨らませる関わり合いの工夫

<手立て>

○よりゲームを楽しむためのチームタイムの設定

本学級の児童は、実態調査から友達と関わり合いながら学習をしていることがわかる。しかし、普段の体育学習では、友達とアドバイスをし合えなかったり、積極的に友達と関わっていなかったりする児童が多く見られる。そのため、友達との関わり合いを充実させることにより、チームで励まし合ってゲームをする楽しさを味わえるようにしたいと考える。

そこで、チームで関わる時間として、チームタイムを設定する。チームタイム①では、チームのめあてとゲームでの動きを確認する。チームタイム②では、チームのめあてを振り返り、うまくいったところや課題を伝え合えるようにする。チームタイム③では、今日の活動の振り返りと次時へ課題をもてるようにする。3つのチームタイムを設定することでチームのめあてをより意識してゲームに取り組んだり、ゲームで友達のよい動きを伝え合ったりすることで、より楽しく学習することができるだろう。

このように、友達と関わり合いながら一つのめあてに向かって活動することで、よりプレルボールの楽しさを味わえると考えた。

<チームタイムの流れ>

活動	目指す児童の姿
チームタイム①	チームのめあてを確認しゲームでの動き方を理解している。
ゲーム1	
チームタイム②	チームのめあてを振り返り、うまくいったところや課題を伝え合っている。
ゲーム2	
チームタイム③	今日の活動を振り返り、次時の課題（めあて）について話し合っている。

5 単元の目標

- (1) プレルボールの行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。 (知識及び技能)
- (2) 自分に合っためあてを立てたり、考えたことを友達に伝えたりすることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたりすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①プレルボールの行い方を理解している。 ②ボールを片手や両手で床に打ち付けて、味方にパスしたり、相手コートに返球したりすることができる。 ③ボールの方向に体を向けたり、ボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。	①自分に合っためあてを考えている。 ②ボールの打ち付け方や動きについて考えたことを、動作や言葉などを使って、友達に伝えている。	①プレルボールの学習に進んで取り組もうとしている。 ②規則を守り、誰とでも仲良く運動をしようとしている。 ③勝敗を受け入れようとしている。 ④友達の考えを認めようとしている。

7 指導と評価の計画

	1	2	3	4	5	6 (本時)	7
学習のねらい	かんたんなルールでゲームを楽しむ						
0 ↓ 45	オリエンテーション ・ 学習の見通しをもつ ・ 準備の仕方 ・ 試しのゲーム ・ 片付けの仕方 など	準備・本時のねらいの確認等					
		レベルアップタイム					
		・ ペアパス→チームパスゲーム ・ ペアの当て→チームでの当て ※習得状況によって発展させていく。				※実態に合わせて活動内容を決める。 チームラリー・ネットあり的当てなど	
						※チームや個人の課題に合った活動を選択して行う。	
		・ 全てのチームとゲームを行う。 (1 時間に 2 試合)					
		振り返り・片付け					
知・技	① (観察)		② (観察)	③ (観察)		② (観察)	③ (観察)
思・判・表			② (発言)	① (観察・カード)	② (発言)	① (観察・カード)	
態度	① (観察)	② (観察)			④ (観察)		③ (観察)

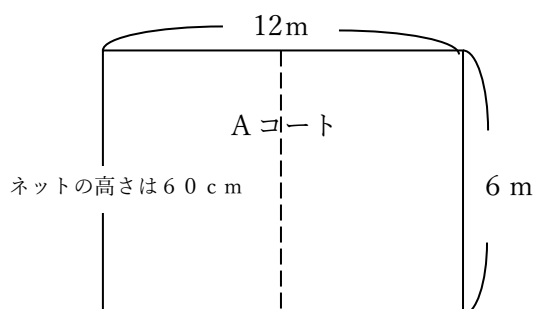
8 指導計画（本時6／7）

	学習内容と活動	教師の指導・支援（○） 評価（◇）
はじめ	1 オリエンテーションをする。 ・プレルボールについて知る。 ・学習のねらいや学習過程を理解し、学習に見通しをもつ。 ・規則やマナーについて理解する。 2 試しのゲームを行う。 3 振り返りをする。	◇プレルボールの学習に進んで取り組もうとしている。 【態度①】 ◇プレルボールの行い方を理解している。 【知識・技能①】
なか① （第2時～第4時）	1 場の準備や準備運動をする。 ・ネット、コート、ボールなどの準備 ・チームごとの準備運動、ストレッチ 2 レベルアップタイムをする。 ・ペアパス ・ペア的当て ・チームパスゲーム ・チームでの当て 3 学習のねらいや約束を確認する。 簡単なルールでゲームを楽しもう 4 ゲームをする。 ・めあてを立てる。 ①チームタイム①（3分） めあての例 ・プレルで味方に正確なパスをする。 ・味方のパスに素早く反応して動く。 ・空いているところにアタックする。 ②1試合目（9分） 前半（4分）コートチェンジ（1分）後半（4分）	○友達と協力し、安全に場づくりをするように声をかける。 ○特に突き指に気を付けることを伝え、必要な準備運動をするよう促す。 ○それぞれの活動の目的を意識して取り組むように声をかける。 ○ねらった動きができていた児童を称賛する。 ○うまくいかない児童のグループに入り、動きのこつを確認したり助言したりする。 ○前時までの活動内容やゲームの規則を確認し、本時の活動全体に見通しをもたせる。 簡単なルールでゲームを楽しもう ○チームのめあてを共有することで、めあてを意識できるようにする。 ◇自分に合っためあてを考えている。 【思考・判断・表現①】 ○ゲーム開始と終了のときは、全員で気持ちのよい挨拶をするように声をかける。 ○規則やマナーを守っている児童や、めあてを意識して活動している児童を称賛する。 ○よい動きやうまくいったところなどをチーム内で共有するよう声をかける。 ○ミスには、「ドンマイ」「いいよ」と励まし合って活動するとよいことを伝える。

<基本的な規則>

- 3人対3人
- ボールは、対戦相手との話し合いで決める。
- サーブは、コートの外から両手でやさしく相手のコートに投げ入れる。
- 返球したボールを相手がさわる前にコートの外に落ちるとアウトとする。
- 相手からきたものや、味方へのパスも全てワンバウンドさせて行う。
- ラリーは3回で返す。(1回だけキャッチしてもよい)
- 相手に返すときは、必ず、自分のコートでボールをバウンドさせる。
- ミスをしたとき、相手に一点入る。
- プレルの方法は、げんこつ・平手・片手・両手のどれでもよい。
- ゲームは時間制で行う。(4分ハーフ)
- 判定はセルフジャッジ(微妙な判定は、ノーカウントまたはじゃんけんなど)

<コート>



③チームタイム②(3分)

チームの振り返りの例

- ・ボールの方向に体を向けられたね。
- ・うまくパスをつなげることができたね。
- ・素早く動いてボールを拾えたね。
- ・励ましの声をかけられたね。 など

④2試合目(9分)

前半(4分)コートチェンジ(1分)後半(4分)

⑤チームタイム③(3分)

- ・チームのめあてが達成できたか振り返る。
- ・次時の課題(めあて)について話し合う。
- ・学習カードの記入

5 学習のまとめをする。

- ・全体でよかった動きやこつなどを共有する。
- ・規則の確認。

○チームで「うまくできたところ」や「気を付けるところ」を視点にして話し合うように声をかける。

◇ボールを片手や両手で床に打ち付けて、味方にパスしたり、相手コートに返球したりすることができる。【知識・技能②】

◇ボールの方向に体を向けたり、ボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。【知識・技能③】

○振り返りができないチームに、教師も入り助言する。

○チームとしてうまくいったこつなどを取り上げ、次時に生かせるようにする。

○めあての達成具合や友達の頑張りを伝え合い、次時への意欲や見通しをもつよう促す。

○うまくいった動きやこつ、めあてを意識していた友達などを発表させ、全体で共有して掲示物を活用するように促す。

○規則やゲーム中に困ったことなどを話し合い、次時につなげる。

○勝敗を受け入れられない児童には、個別に

	6 後片付けをする。	声をかけたり、ルールを再確認したりする。 ○友達と協力し、安全に片付けるように声をかける。
なか② (第5時～第7時)	1 場の準備や準備運動をする。 ・ネット、コート、ボールなどの準備 ・チームごとに準備運動、ストレッチ 2 レベルアップタイムをする。 ①全体で一つ行う。 ・チームパスゲーム ・チームでの的当てなど ②各チームで選んで行う。 例 ・パスが繋がらない。 →チームパスゲームをしよう。 ・最後のアタックがうまくいかない。 →チームでの的当てをしよう。 3 学習のねらいや約束を確認する。	○友達と協力し、安全に場づくりができるように声をかける。 ○特に突き指に気を付けることを伝え、必要な準備運動をするよう促す。 ○それぞれの活動の目的を意識して取り組むように声をかける。 ○ねらった動きができていた児童を称賛する。 ○うまくいかない児童のグループに入り、動きのこつを確認したり助言したりする。 ○前時までの活動内容やゲームの規則を確認し、本時の活動全体に見通しをもたせる。
	簡単なルールでゲームを楽しもう	
	4 ゲームをする。 ・めあてを立てる。 ①チームタイム① (3分) めあての例 ・しっかりボールと叩きつけて仲間とりやすいパスを出そう。 ・ボール方向に体をしっかり向けよう。 ・空いているところにアタックする。 ②1試合目 (9分) 前半(4分)コートチェンジ(1分)後半(4分) ③チームタイム② (3分) チームの振り返りの例 ・ボールの方向に体を向けられたね。 ・うまくパスをつなげることができたね。 ・素早く動いてボールを拾えたね。 ・励ましの声をかけられたね。 など	○チームのめあてを共有することで、めあてを意識できるようにする。 ○ゲーム開始と終了のときは、全員で気持ちのよい挨拶をするように声をかける。 ○規則やマナーを守っている児童や、めあてを意識して活動している児童を称賛する。 ○よい動きやうまくいったところなどをチーム内で共有するよう声をかける。 ○ミスには、「ドンマイ」「いいよ」と励まし合って活動するとよいことを伝える。 ○チームで「うまくできたところ」や「気を付けているところ」を視点にして話し合うように声をかける。 ◇ボールを片手や両手で床に打ち付けて、味方にパスしたり、相手コートに返球したりすることができる。【知識・技能②】 ◇ボールの方向に体を向けたり、ボールを操作しやすい位置に移動したりすること

	④ 2 試合目				【知識・技能③】 ◇規則を守り、誰とでも仲良く運動をしようとしている。【態度②】 ◇勝敗を受け入れようとしている。【態度③】 ◇友達のを考えを認めようとしている。【態度④】 ○振り返りができないチームに、教師も入り助言する。 ○チームとしてうまくいったこつなどを取り上げ、次時に生かせるようにする。 ○めあての達成具合や友達の頑張りを伝え合い、次時への意欲や見通しをもつよう促す。 ○うまくいった動きやこつ、めあてを意識していた友達などを発表させ、全体で共有して掲示物を活用するように促す。 ○規則やゲーム中に困ったことなどを話し合い、次時につなげる。 ○勝敗を受け入れられない児童には、個別に声をかけたり、ルールを再確認したりする。 ○友達と協力し、安全に片付けけるように声をかける。																							
	<table><tr><th></th><th>第 1 コート</th><th>第 2 コート</th><th>第 3 コート</th></tr><tr><td>1</td><td>1－2</td><td>3－4</td><td>5－6</td></tr><tr><td>2</td><td>1－3</td><td>2－5</td><td>4－6</td></tr><tr><td>3</td><td>1－4</td><td>2－6</td><td>3－5</td></tr><tr><td>4</td><td>1－5</td><td>2－4</td><td>3－6</td></tr><tr><td>5</td><td>1－6</td><td>2－3</td><td>4－5</td></tr></table>		第 1 コート	第 2 コート		第 3 コート	1	1－2	3－4	5－6	2	1－3	2－5	4－6	3	1－4	2－6	3－5	4	1－5	2－4	3－6	5	1－6	2－3	4－5		
	第 1 コート	第 2 コート	第 3 コート																									
1	1－2	3－4	5－6																									
2	1－3	2－5	4－6																									
3	1－4	2－6	3－5																									
4	1－5	2－4	3－6																									
5	1－6	2－3	4－5																									
	⑤ チームタイム③（3分） ・ チームのめあてが達成できたか振り返る。 ・ 次時の課題（めあて）について話し合う。 ・ 学習カードの記入 5 学習のまとめをする。 ・ 全体でよかった動きやこつなどを共有する。 ・ 規則の確認。 6 後片付けをする。																											
まとめ	学習のまとめをする。 ○ プレールボールの行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをすることができるようになったか。 ○ 自分に合っためあてを立てたり、考えたことを友達に伝えたりすることができたか。 ○ 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたりすることができたか。																											

9 資料等

○ボール



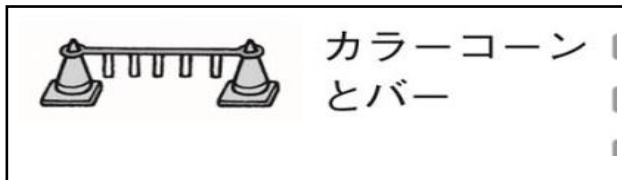
ソフトバレー
ボール



ライトドッジ
ボール

「手に当てて痛くないもの」
「少ない力である程度バウンドするもの」

○ネット



ネットの高さは50センチ
※実態に応じて60センチにする。

○コート 縦12m、横6m程度（バドミントンコートの線）

体育館全体図 3人（4人）×6チーム
ボールはライトドッジボールを使う

